



並木中等story

令和4年10月24日号

語るということ

今日も春日耕夫先生の『よい子という病』（岩波書店）に書かれた内容からです。

先生は「語ることは人を信頼するための営みであり、世界を信頼するための営みともなる。同時に自分があるがままの自分のままで受け入れられることを確認し、自分がある



るがままで人に受け入れられ得る存在であることを実感する営みともなる。」と書いています。少し難しいことを書きました。私なりに先生の書かれた内容を解釈してみます。

実は自分を語るということはハードルが高いことなのです。自分を語るには、話す前に自分自身の「弱さ」や「醜さ」を含めてあるがままの自分を直視しなければならないからです。特に、今、心配事や悲しみを持っている人にとっては苦渋な事

です。語れないという状態は、まだ、自分自身が整理できていない状態なのでしょう。しかし、少しずつ、ほんのちょっとでも、語るできるようになった時、あるがままの自分自身を確認始めたことになるのです。語ることによって人は自分自身を確かめたり、受け入れたりしているのです。

《祝 学生科学賞県審査県議会議長賞・教育長賞受賞！》

第66回日本学生科学賞の県審査があり、5年次の横井野さんが県議会議長賞（2位相当）同じ5年次の山川さんが教育長賞（3位相当）を受賞しました。2人の作品は、この後、中央予備審査に出品されます。

おめでとうございます。